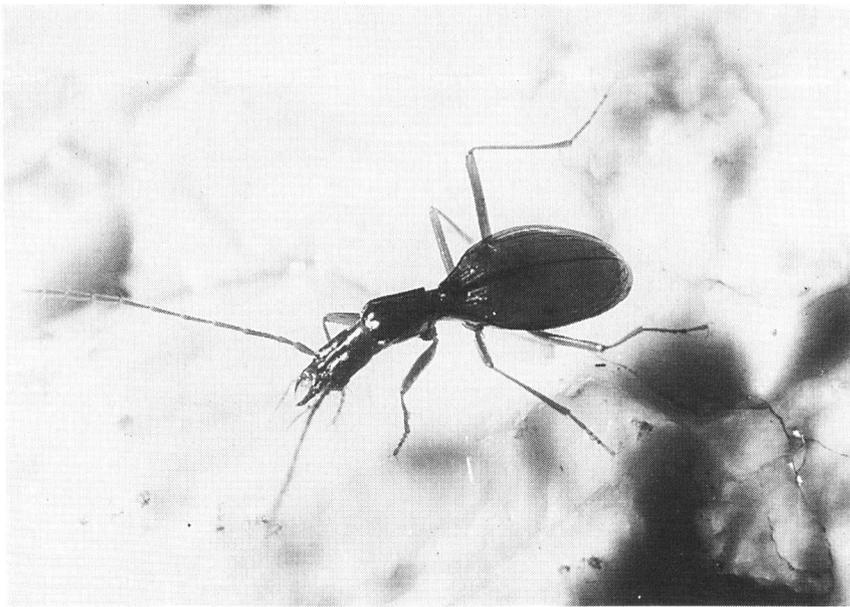


ISSN0912-0114

南予生物

Vol.7 No.1·2 1993



南予生物研究会

《表紙写真》

アシナガメクラチビゴミムシ *Nipponaphaenops erraticus* S. Uéno

暗黒，低温，多湿，貧栄養という洞窟の環境に極度に適応した超洞窟性の甲虫。

体長6～7mm。皮膚は薄く，複眼は退化・消失し，かわりに触角や脚は細長く伸び，体表の感覚毛が著しく発達している。体の前半部は細長く，大あご，口ひげも細長い。これは土の隙間に産卵されたカマドウマの卵を引き出して食べるための適応形態と考えられている。体の後半部は前翅が癒合して半球状に膨れ，気室をつくる（偽膨腹現象）。高湿度で気管呼吸が困難なため，呼吸は気室の下の腹部背面の皮膚を通して行われる。気室に空気を蓄えることができるため，長時間水中で活動することができる。

基準産地は野村町大野ヶ原の姫が淵の縦穴，高知県仁淀村鳥形山の石神洞に至る四国カルストの特産種で，多くは深い縦穴の底にすみ，壁や岩の上を敏速に歩く。

種名の*erraticus*は「歩きまわる」という意味である。（愛媛県立八幡浜高等学校 毛利 俊 樹）